

(1) 取組タイトル： ビジネス演習・・・実施できず取り下げとなりました。

①(1) 県内企業経営者等による講義・講演

②取組の目的

新潟県（十日町）の資源や地域特性を活用した新規ビジネス起業を実体験し成功を収めている実業家の講義を通じて、新潟県内での起業に関する興味を喚起するとともに、起業に関する実際知識の涵養を図る。

また、柏崎市内において起業に至った経緯、経営理念、資金調達等における課題などについて説明を受けることにより、新潟県内での起業に関する興味関心の喚起と実際知識の涵養を図ることを目的とする。

③取組の内容

「ビジネス演習」は、新潟県内での起業プランを作成・発表することを通じて、起業のための基礎知識、および新潟県の産業や起業環境に関する基礎知識を修得することを目的とする科目である。同科目では、妻有ビール(株)高木千歩社長に加えて、下記2名の専門家による特別講義、およびビジネスプラン発表に対する審査講評を行う。また、市内の起業した個人店舗のオーナーをお招きし、起業に至った経緯やノウハウについてレクチャーを受け、ビジネスプランを企画するうえで参考とし、県内での起業への関心を助長する。

〔日程・登壇講師〕

(1) 県内企業経営者等による講義・講演

(特別講義)

- 6月21日 講師 日本政策金融公庫長岡支店融資課長 工藤秀利氏
テーマ「若手経営者による起業の実施事例と創業計画書の役割」
- 6月28日 講師 妻有ビール(株) 代表取締役社長 高木千歩氏
テーマ 「私の起業体験 ―ビジネスプランの策定と実際」
- 7月 5日 講師 柏崎商工会議所中小企業相談所長 阿部一昭氏
テーマ 「柏崎における起業の実例と飲食物販事業の動向」
- 7月12日 講師 ベーカリー・パンといす オーナー 中島 由紀夫氏
テーマ 「私の起業体験 ―ビジネスプランの策定と実際」

(審査講評)

- 7月28日講師 妻有ビール(株) 代表取締役社長 高木千歩氏
講師 日本政策金融公庫長岡支店融資課長 工藤秀利氏
講師 柏崎商工会議所中小企業相談所長 阿部一昭氏

〔会場〕

新潟産業大学本館2階203教室

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
4	0

a 企業一覧

日本政策金融公庫長岡支店、妻有ビール(株)、柏崎商工会議所、パンといす

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数

経済学部経済経営学科2～4年生10名

⑥効果検証の方法

別紙のアンケートにより本取組による学生の意識変化等について調査し、取組の効果を検証する。

(2) 取組タイトル：キャリアデザイン I

～県内企業に勤務する卒業生とのパネルディスカッション～

① (4) 卒業生との懇談会

②取組の目的

県内の事業所で働く卒業生から、在学時の就職活動や現在に至るまでの体験談を聞く中で、就職に対する早期の気づきを促すことを目的とする。また、同時に県内企業の魅力を発信することを狙いとする。特に就職活動については、卒業生自身の就職活動を社会人の視点で振り返った中での助言を聞き、大学生活の有意義な過ごし方と卒業後のキャリアプランへの意識を高める。

③取組の内容

(協力企業名、日程、会場等を含む)

「キャリアデザイン I」(金曜 2 限)における卒業生とのパネルディスカッション

実施日時：令和 4 年 6 月 24 日 (金) 10:55～12:25

場 所：本館 2 階 202 教室

内 容：パネルディスカッション OB・OG に就職体験談を聞く

講 師：下記の卒業生 4 名

- ① 尾崎 枝里 氏 (2021 年 3 月卒) ワタナベグループ勤務
- ② 吉井 大樹 氏 (2021 年 3 月卒) (福) ロングラン 勤務
- ③ 星 溪太郎 氏 (2021 年 3 月卒) 緑水工業㈱ 勤務
- ④ 齊藤 千紘 氏 (2021 年 3 月卒) 昱工業㈱ 勤務

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
4	0

a 企業一覧

ワタナベグループ
(福) ロングラン
緑水工業㈱
昱工業㈱

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数

経済学部 1 年生 (53 名)

⑥効果検証結果

実施前には、参加した 4 社について 65%を超える学生が「知らない」と回答したが、終了後は、64%以上の学生から「県内企業への興味が高まった」と答えており、地元企業就職への意識を高めることができた。一方、県外出身者が 55%を超え、地元への Uターン就職を考えている学生が多数のため、県外企業への就職を検討する学生は 34%となったが、比率を考慮した場合、今回の講座実施を通して「県内・県外にこだわらない」と考える学生の比率を上げる効果があったと考えられる。

(3) 取組タイトル： 地域振興論

- ① (1) 県内企業経営者等による講義・講演
(2) 県内企業見学

②取組の目的

地域振興の在り方について、総合的な視野から授業を行なう。外部講師による教室での講義に加え、現場を目で見て学ぶことで、新潟県内への定住、就職促進に繋げることを目的とする。

③取組の内容

(協力企業名、日程、会場等を含む)

授業は本学の教員に加え、外部講師を含む様々な業界の講師により、オムニバス方式で実施する。また、新潟県内の企業、自治体などを実際訪れるフィールドワークを行い、県内就職への意識を高める。

[日程・登壇講師]

- (1) 県内企業経営者等による講義・講演

県内の企業経営者等を招聘し、テーマに沿った各取組について講義いただく。

講師名(敬称略) 役職等	実施日	テーマ	参加者数	県指定企業
新潟産業大学経済学部 黒岩 直 講師	令和4年 9/23 (金)	「地域振興論」の授業を始めるにあたって。県補助事業としての「地域振興論」の授業の趣旨説明など	56名	
women farmers japan 株式会社代表 佐藤 可奈子	9/30 ① (金)	農業を通じて、農村発ローカルイノベーションを	60名	
(有) la Luce e L'ombra 代表取締役 西村 遼平	11/4 ② (金)	民間デベロッパーが地域にもたらす効果	48名	
柏崎市産業振興部 ものづくり振興課 課長 伊藤 明紀	11/18 ③ (金)	柏崎市の産業について	48名	
アステル・メグルラボ 代表 小田 芽久美	12/2 ④ (金)	ワーク・ライフ・バランスという生き方・働き方	45名	
株式会社ブルボン 総務推進部 CSR 企画室 室長 小保方 薫	12/9 ⑤ (金)	企業の CSR・SDGs 活動	54名	
PVK 株式会社 代表取締役社長入澤 勇太	12/23 ⑥ (金)	スポーツ・文化ツーリズム	38名	
株式会社いせん ISEN corp. 代表取締役 井口 智裕	令和5年 ⑦ 1/6 (金)	観光地域づくり (DMO の運営やブランディング)、旅館経営全般	43名	
株式会社 第四北越銀行 コンサルティング事業部 担当部長 山際 克也	1/20 ⑧ (金)	新潟県のために銀行ができること	63名	

[会場] 本館 2 階 202 教室

【設問】

Q2. あなたはこの授業のテーマについて、関心を持ちましたか？

Q4. あなたはこの授業を受けて、地域に対する考え方が変化しましたか？

Q5. あなたはこの授業を受けて、就職に対する意識が高まりましたか？

(2) 県内企業見学

新潟県の産業の強みや企業の魅力あふれる事業の実態を知り、産業の現場を体験することによって、インターンシップや就職活動に踏み出す第一歩とするための見学。

見学先	実施日	住所	現地見学時間帯	参加者数	県指定 企業
株式会社阿部建設	10月7日 ① (金)	柏崎市比角 2-3-26	13:30～14:30	14名	
株式会社テック長沢	10月21日 ② (金)	柏崎市大字藤井 1358-4	13:30～14:30	15名	
日本海石地わさび園	10月28日 ③ (金)	柏崎市西山町大崎 1788-6	13:30～14:30	14名	
マルソー株式会社 長岡新産 SLC	11月11日 ④ (金)	長岡市南七日町 53	13:30～14:30	14名	
柏崎市消防本部	11月25日 ⑤ (金)	柏崎市三和町 8-51	13:30～14:30	13名	
朝日酒造株式会社	12月3日 ⑥ (土)	長岡市朝日 880-1	14:00～15:30	14名	○

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
13	1

a 企業一覧

・株式会社第四北越銀行・PVK 株式会社・株式会社ブルボン・women farmers japan 株式会社・柏崎市産業振興部・アステル・メグルラボ・(有) la Luce e L'ombra
・株式会社いせん ISEN corp.・株式会社テック長沢・マルソー株式会社
・株式会社阿部建設・日本海石地わさび園・柏崎市消防本部

b 企業一覧

朝日酒造株式会社

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数（以上表内に掲載）

経済学部経済経営学科 2 年生全員・その他希望する履修者数（文化経済学科含む）
（履修登録者数：74 名）

⑥効果検証の結果

別紙のアンケートにより本取組による学生の意識変化等について調査し、取組の効果を検証した。「新潟の産業・企業を知る講座」の書式によるアンケートを実施し、53 名から有効な回答が得られた。回答のうち、「この講義を受講したことで、県内企業への興味や関心が高まりましたか」という問いには、「高まった」と肯定的な回答をした学生が 45 名を占めた（全体の約 85%）。また、今回の取組によって新たに知った企業があると答えた学生は 44 名であった（問 3 の「講座前、登場企業を知っていたか」の回答から、「全て知らなかった」を除いた人数）。このほか、「登場企業のインターンシップに参加したい」と答えた学生が過半数を占めた。

以上のことから、この取組によって県内企業への興味関心が高まり、学生が就職を意識する良い機会が提供されたと考えられる。また県内就職への意識を高めるという点で、当該授業が一定の役割を果たしたことが確認できる。今後も、当該授業では県内就職・定住へと繋がる取組みをさらに推し進める予定である。

その他：取組実績に係る情報発信の結果

実施後に、大学 Web サイトおよび SNS への掲載、県内新聞への記事掲載、学外向け広報誌への掲載等を行い、情報発信を行った。フィールドワークに参加した学生の感想コメントや、講義の概要の紹介などを掲載した。

(1) 大学 SNS を通じた情報発信

大学公式 Twitter 掲載

テック長沢

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1584401806670450688

朝日酒造株式会社

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1599628193669197824

日本海石地わさび園

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1589886416678694913

NSU 学生広報 Twitter 掲載

阿部建設

https://twitter.com/NSU_gakuseikoho/status/1590185645649321984

マルソー長岡新産 SLC

https://twitter.com/NSU_gakuseikoho/status/1597883040034095104

柏崎市消防本部・消防署

https://twitter.com/NSU_gakuseikoho/status/1597149519745277952

(2) 新聞記事掲載

新潟日報 2022.11.30（水）付け

『まちがキャンパス 新潟産業大生の活動 現場の“息吹”肌で実感』

※株式会社 テック長沢の訪問レポートを掲載

(3) 学外向け広報誌への掲載

- ・新潟産業大学「地域連携シーズ集」への授業紹介記事の掲載

『「地域振興論」の取組みについて ―「新潟の産業・企業を知る講座」―』

- ・新潟地域連携コミュニティ「地域志向科目パンフレット」への授業紹介記事掲載（予定）

(4) 取組タイトル：まちづくり基礎

①

(1) 県内企業経営者等による講義・講演

(2) 県内企業見学

②取組の目的

本科目は文化経済学科「まちづくり・地方行政分野」の入門として位置づけられる科目である。今日、日本の地方都市では市民が主体的に「まちづくり」を実践するための知識や技能が求められている。そこで、柏崎市内でのフィールドワーク、地域の方へのヒアリングを通じて学生目線での地域活性のための「まちづくり」に興味関心をもち、地域に主体的に関わろうとする態度を身につけることを目指す。

③取組の内容（協力企業名、日程、会場等を含む。）

柏崎市内における「まちづくり」活動を実践している企業、団体の活動内容と今後の展開、展望について講演いただき、その後質疑応答、意見交換等を行い、学生から柏崎を元気にするまちづくりを提案できるノウハウを身に付ける。

また、地域活性のための「まちづくり」イベント等へ参加し、大学生による「まちづくり」実践に結び付ける。

〔日程・登壇講師〕

(1) 県内企業経営者等による講義・講演（予定）

講師名(敬称略) 役職等	実施日	テーマ	参加者数	県指定企業
柏崎市生活支援コーディネーター 砂塚 一美 暮らしのサポートセンターえきまえ 金子 ユリ子	令和4年 11/28 (月)	地域包括ケアシステムによるまちづくりと柏崎市における実践	37名	
株式会社 AKK プラス 代表取締役 長沢 智信 「明るい柏崎計画」 代表 竹内 一公	12/5 (月)	「明るい柏崎計画」における「#柏崎エール飯」等の事業について	28名	
柏崎市 都市整備部 都市計画課 都市計画 係長 元井 恒彦	令和5年 1/23 (月)	柏崎市における立地適正化計画について	28名	

(2) 県内企業見学

見学先	実施日	住所	現地見学時間	参加者数	県指定企業
柏崎港観光交流センター「夕海」	令和4年 10/17・10/24 (月)	新潟県柏崎市番神1丁目 7-67	15:15～16:15	42名	
①西山ふるさと公苑 ②長峰大池	2/7 (火)	新潟県柏崎市西山町坂田 717-4 新潟県柏崎市西山町長嶺	9:30～12:30	31名	

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
6	0

a 企業一覧

- ・暮らしのサポートセンターえきまえ・株式会社AKKプラス
- ・柏崎市 都市整備部 都市計画課・柏崎港観光交流センタータ海
- ・西山ふるさと公苑・長峰大池

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数（以上表内に掲載）

経済学部 1 年～4 年生（履修登録者数：43 名）

⑥効果検証の結果

別紙のアンケートにより本取組による学生の意識変化等について調査し、取組の効果を検証する。

アンケートを実施し、本取組前後の学生の意識や行動の変化等について調査し、31 名から回答を得られた。回答者は 1 年生が 15 名、2 年生が 12 名と、1、2 年生が大半を占めている。また、県内出身者が 12 名、県外出身者が 18 名（無回答 1 名）であった。

講座前に登場企業をすべて知っていた学生は 6 名だけであったが、訪問後に「授業で得られた情報を友人などに発信したい」での肯定的意見が 19 名、また、「県内企業への興味や関心が高まった」が 22 名であったことから、出身地に関わらず、県内企業への興味関心が高まった様子がうかがえる。

さらに県内出身者 12 名に注目すると、訪問後に「授業で得られた情報を友人などに発信したい」、「県内企業への興味や関心が高まった」での肯定的意見がいずれも 11 名（92%）であったことから、特に県内出身者の県内企業への興味関心の高まりが見られたといえる。

1、2 年生が中心の授業であるため、進路については約 1／3 が「まだ考えていない」との回答であったが、今回の講座をきっかけの一つとして、早い段階から県内企業についての理解を深めることを、今後のキャリア形成に活かしてもらえることが期待できると考える。

(5) 取組タイトル：キャリアデザインⅡ

～県内企業に勤務する卒業生とのパネルディスカッション～

① (4) 卒業生との懇談会

②取組の目的

県内の事業所で働く卒業生を招へいし、在学時の就職活動から就職後の現在に至るまでの体験談を伺い、進路決定の重要な要素である業種研究や自己分析と適性などについて考える機会を提供するとともに、県内企業の魅力を発信することを狙いとする。卒業生の就職活動や社会人の視点での振り返りを聞き、就職活動への準備と大学時代に備えるべき資質を理解し、次年度に控える就職活動へのステップとする。

③取組の内容（協力企業名、日程、会場を含む。）

「キャリアデザインⅡ」（月曜2限）における卒業生とのパネルディスカッション

実施日時：令和4年11月14日（月） 10：55～12：25

場 所：本館2階 203教室

内 容：パネルディスカッション OB・OGに就職体験談を聞く

講 師：下記の卒業生4名

- ① 後藤 政樹 氏 （2020年3月卒）(株)たかだ 勤務
- ② 泉 宏紀 氏 （2021年3月卒）越後交通(株) 勤務
- ③ 中島 知輝 氏 （2021年3月卒）中越運送(株) 勤務
- ④ 小川 琴音 氏 （2019年3月卒）柏崎商工会議所 勤務

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
4	0

a 企業一覧

(株)たかだ
越後交通(株)
中越運送(株)
柏崎商工会議所

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数

経済学部 2年生 47名 + 3年生 2名 計 49名

⑥効果検証の結果

終了後に、就職に対する意識が高まったと答えた学生が約7割に達した。2年生も県外出身者比率が51%と多く、県外企業への就職を目指す学生は40%であることから、県内企業への就職も視野に入れる学生が増えたと考えることができる。

興味を持った事業所として「商工会議所」を挙げた学生が半数を超えた。これは、全国の商工会議所を念頭に置き、出身県での就職先として検討しやすかった為と思われる。また、コロナ禍の影響が比較的少なかった運輸業への関心度が高かった。

(6) 取組タイトル：キャリアデザインⅢ

～県内企業の人事採用担当者とのパネルディスカッション～

① (1) 県内企業経営者等による講義・講演

②取組の目的

県内の事業所の人事採用担当者を招へいし、各企業で求められる人物像、大学時代に備えておくべき経験や知識、資質などを伺い、在学生に就職に対する気づきを促すとともに、県内企業の魅力を発信することを狙いとする。特に就職活動を直前に控える3年生に対して、県内企業への進路と業種選択の幅を広げるとともに、企業研究や自己分析への関心を高めることで、就職活動への準備を本格化させることを狙いとする。

③取組の内容（協力企業名、日程、会場等を含む。）

「キャリアデザインⅢ」（金曜2限）における採用担当者とのパネルディスカッション

実施日時：令和4年11月25日（金） 10：55～12：25

場 所：本館2階 201教室

内 容：パネルディスカッション 人事採用担当者から望む人物像を聞く

講 師：下記の企業の採用担当者4名

- ① ㈱たかだ 総務経理部 顧問 渋谷 義裕 氏
- ② 新潟県警察本部 警務部警務課 採用係係長 林 克恒 氏
- ③ 越後交通㈱ 総務人事部 次長 横山 賢二 氏
- ④ ㈱リビングギャラリー 人事課 課長 本間 梨絵 氏

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
4	0

a 企業一覧

以上、①～④の通り

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数

経済学部 3年生30名+4年生1名 計31名

⑥効果検証の結果

新潟県内出身者が51%となっている3年生だが、7割以上の学生が「就活への意欲が高まった」と回答している。一番多く関心を持った事業所として新潟県警を挙げた者が多かったが、公務員志望者の関心を引いたためと考えている。また不動産業への関心も高く、これまで本学では就職志望先として高くない業種だけに、幅広く進路の視野を考えさせる機会になっていた。「出身県にこだわらない」学生と「県内企業を志望」の学生を合わせると7割近い学生が、新潟県内の企業に関心を持っており、出身県比率を考慮すると新潟県内企業への関心や興味を高める機会となったと考えている。

(7) 取組タイトル：地域理解ゼミナール・地域活性ゼミナール

～地域実践教育プログラム 地域に学び地域をおこす～

① (2) 県内企業見学

②取組の目的

講座とフィールドワークを連動させ、学内だけに留まらず、地域企業・団体・地域コミュニティなどと協働し、地域を知ることによって将来社会に求められる地域のリーダー育成を目的とする。

③取組の内容（協力企業名、日程、会場等を含む。）

1、2年次では、必修の「地域理解ゼミナールⅠ～Ⅳ」を中心とした地域理解科目群を配置し、理論と実践を連動させ、地域おこしのための6分野（①地域経済政策、②地域企業経営、③地域観光・スポーツ、④地域農業・6次産業、⑤地域文化、⑥コミュニティ・まちづくり）について、フィールドワークを活用しながら地域の産業や文化についての理解を深める。1年次は1年間を通じて学部生全員が共通で上記6分野をまんべんなく学び、2年次では学期毎に興味のある1分野（1年間で2分野）を選択し、グループでの学びを通じて深掘りをする。学期末には合同発表会を開催し、各分野での調査研究や活動成果を報告する。

3、4年次では、経済経営学科、文化経済学科それぞれの専門分野毎に開講される「地域活性ゼミナールⅠ～Ⅳ」を中心とした地域活性科目群が配置されており、1、2年次で学んだ知識と経験をもとに、より専門的な学びと地域連携活動を通じて「地域に学び地域をおこす」人材の育成、地域社会に地域のリーダーを輩出することを目指している。

(2) 県内企業見学

担当	実施日	実施段階での見学先	⑤参加者数
春日 俊雄	10月13日(木) 10月29日(土)	【地域観光・スポーツ分野】 ・松雲山荘・木村茶道美術館（柏崎市） ・十日町市「光の館」「清津峡溪谷トンネル」（十日町市） ⑥効果検証の結果 参加者17名中10名がアンケートに回答した。（全員1年生）、県内出身者は2名、県外出身者は8名である。「事前に見学先企業を知っていたか？」については、「知っている企業があった」が2名、「まったく知らなかった」が8名であった。県内出身者でもすべて知らなかったと回答している。また、県外出身者で、知っている企業があったと2名が回答した。 「見学後の意識」では、「講義（授業）で得られた情報を友人など周りの人に発信したい」が6名、「対象企業に就職・インターンシップなどに関心あり」が5名の半数を占めた。 今回の見学を通じて、地域の観光資源と観光産業について半数は関心が高まったと回答した。（県内2名と県外3名） 卒業後の就職先については、1年生対象の授業であったこともあり、まだ考えていないが4名、県内県外にこだわらないが3名、できれば県外が2名、できれば県内1名の結果となった。	学生： 経済学部 1年生17名 教員：1名

担当	実施日	実施段階での見学先	⑤参加者数
青木 隆明	12月3日(土)	【地域経済政策分野】 ・新潟県立歴史博物館（長岡市） ⑥効果検証の結果 フィールドワーク実施後に、参加した学生7名に対しアンケートを実施し、県内出身者が4名で県外出身者の3名が回答した。 「事前に見学先を知っていたか」に対し、知らなかったが4名で3名が知っていたと回答した。県内出身者のうち2名が「全く知らなかった」と回答した。また、見学後の意識では、就職したい、インターンシップにやや参加したいが大半を占めた。見学後の興味については、高まったが5名で、地域経済を知るうえで博物館の見学は大変参考になった。しかしながら、卒業後の就職先として、県外でと回答した学生が4名を占め、今後の見学先の選定に工夫が必要であると感じた。	学生： 経済学部 2年生7 名 教員：1 名
今村 英明	11月24日(木) 12月1日(木) 12月8日(木)	【地域企業経営分野】県内長寿企業訪問 ・株式会社小竹天瑞堂（柏崎市） ・しなのや寿司店（柏崎市） ・阿部辛製菓株式会社（小千谷市） ⑥効果検証の結果 参加者11名中、県内出身者は4名、県外出身者は7名である。 「事前に見学先企業を知っていたか？」については、「知っている企業があった」が5名、「まったく知らなかった」が6名であった。 「見学後の意識」では、「講義（授業）で得られた情報を友人など周りの人に発信したい」が5名、「対象企業に就職・インターンシップなどに関心あり」が3～5名であった。 今回の見学を通じて、地域企業や経営者に対して関心が高まったり、また一部の学生では就職やインターンシップへの興味が増したことがうかがえる。	学生： 経済学部 2年生11 名 教員：1 名
黒岩 直	11月10日(木) 11月24日(木)	【地域経済政策】 ・株式会社カシックス ・ハコニワ ⑥効果検証の結果 （カシックス） 授業終了後にアンケートを実施し、取組前後の学生の意識や行動の変化等について調査した。参加者10名のうち8名から回答を得られた。「この講座を受講したことで、県内企業への興味や関心が高まったか」という問いに対して「高まった」と回答した者が7名いた。また、「登場企業を知っていたか」という問いに、「知らなかった」と回答した者が過半数いた。このことから、この取組みが柏崎市の地元企業を知るきっかけになったことが窺える。 （ハコニワ） 参加者10名のうち7名から回答を得られた。「県内企業への興味や関心が高まったか」という問いに対して「高まった」と回答し	学生： 経済学部 2年生11 名 教員：1 名

		た者が6名いた。また、「周りの人に発信したいと思うか」という問いに肯定的な回答をした者が5名いた。 以上のことから、全体として今回の取組みは県内企業への関心や意識を高め、積極的に関わるきっかけを提供したと考えられる。 (参考：学外向け広報) カシックス https://twitter.com/niigata_sandai/status/1593063230536318977 ハコニワ https://twitter.com/niigata_sandai/status/1595976596737130497	
大石友子	11月18日(金) 11月26日(土)	【地域企業経営分野】 ・醸造のまち摂田屋(吉乃川ミュージアム他)(長岡市) ・キュービットバレイ(上越市) ⑥効果検証の結果 アンケートを実施し、本取組み前後の学生の意識や行動の変化について調査した。参加者17名のうち17名から回答を得られた。 (各設問の集計結果は別紙のとおり) 「講座前に参加企業を全く知らなかった」が40%であったが、知っていた学生の中にも「実際に行って話を聞いてみて知ることがいっぱいあった」と感想を述べていた。また、「知識が高まった」が70%、「講義で得られた情報を友人などに発信したい」や「就職したい」学生もあり、この取組みが地域の企業や地域活性化についての理解を得るために効果があることがわかった。地域の資源を活かした企業経営を知ることにより、地域と企業の関わりについて考えるきっかけとなった。	学生： 経済学部 2年生 95名 教員：1名
権田恭子	10月6日(木) 10月20日(木)	【コミュニティ・まちづくり分野】 ・中心市街地まちづくり視察 (協力企業・団体名：菓子道楽 新野屋・特定非営利活動法人 地域活動サポートセンター柏崎-くらしのサポートセンターえきまえ-) ・かしわざき市民活動センターまちから (柏崎市) ⑥効果検証の結果 アンケートを実施し、本取組前後の学生の意識や行動の変化等について調査した。10名から回答を得られた。 訪問後に「登場企業のインターンシップに参加したい」での肯定的意見が4名、「授業で得られた情報を友人などに発信したい」での肯定的意見が7名であったことから、市内にこのような施設があること、ここで働く方々の仕事について興味を持ってくれた様子が窺えた。 回答者のうち県内出身者は6名、県外出身者が4名だが、「県内企業への興味や関心が高まった」が9名であったことから、出身地に関わらず、県内企業への興味関心が高まった様子がうかがえる。	学生： 経済学部 1年生 13名 教員：1名

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
11	0

a 企業一覧

以上、表の通り

⑤参加対象学生の学年、学部及び人数 表内掲載 ⑥効果検証の結果 表内掲載

2. 今年度事業に係る総括、今後の課題等

令和4年度の「新潟の産業・企業を知る講座」では、以下の7つの取組において、県内企業見学、企業経営者等による講義、パネル・ディスカッション等を行った。取組タイトルはそれぞれ、「ビジネス演習」「キャリアデザインⅠ（およびⅡ・Ⅲ）」「地域振興論」「まちづくり基礎」および「地域理解ゼミナール・地域活性ゼミナール」の7つである（このうち最初の「ビジネス演習」については実施できず取り下げとなった。なおそれ以外の取組については予定通り実施された）。

まず、キャリア形成の意識付けを目的とする「キャリアデザインⅠ（およびⅡ・Ⅲ）」の3つの取組については、県内企業に就職した卒業生や、人事担当者によるパネル・ディスカッション等が行われた。これらの取組は、県内企業の魅力を発信し、県内就職への意識を高めることを大きな目的としている。授業後のアンケートによれば、「これまで知らなかった県内企業を知ることができた」「県内就職への関心が高まった」といった結果が得られ、取組の趣旨に沿った効果が得られたことが確認できた。また高学年になるにつれ、より県内企業への関心を持つ学生が増加する傾向が確認できた。このことも当該取組の大きな特徴である。

次に、県内企業経営者の講演や企業見学を柱とする、「地域振興論」「まちづくり基礎」では、県内企業・団体の様々な取組を知り、実際に見学・体験して、地域への関心を引き起こし、主体的に地域に関わる姿勢を育てることを目的としている。アンケート結果ではこうした目的に沿った効果が得られたことが確認できた。さらに個別にみると、「地域振興論」ではインターンシップへの参加意欲が高まっており、「まちづくり基礎」では主体的な情報発信の意欲が高まっていることが、それぞれの取組の大きな特徴になっている。以上より、両者の取組は、県内企業・地域に積極的に関わる姿勢を育てるという、一定の役割を果たしたといえる。

そして「地域理解ゼミナール」では、様々な教員による地域活性化をテーマとする取組が行われ、分野ごとにそれぞれの教員の専門分野を活かした特色のある授業が展開された。詳細は（7）の記述に譲るが、総じて（県内・県外出身者の別を問わず）新潟県内企業への関心を高め、県内就職への意識を高める効果があったことが確認できた。またインターンシップ参加を促し、情報発信意欲を高めたことも、アンケート結果から窺える効果である。

以上のように、令和4年度の取組はいずれも、「新潟の産業・企業を知る講座」の趣旨に則り、県内就職・定住への意識を高めたといえる。また、これらの7つの取組は、いずれも相乗効果をもっており、それぞれが補完し合いながら、総合的に地域への関心を育て、県内就職を後押しする役割を果たしたと考えられる。このことは本学の取組の特色であるといえる。

今後の課題としては、①（地理的な事情もあり）対象企業が柏崎地域に集中しすぎていること、そして県内企業を広く採り上げる余地がまだ残されていること、②これに関して、県からの指定企業の活用比率を引き上げる必要があること、さらに③学生の主体的な意欲をより引き出せるよう、取組の内容を工夫する必要があること、最後に④良好なアンケート結果が得られているので、これを実際の県内就職に繋げていくこと、以上が課題として考えられるところである。本学ではこれらの課題に取り組みながらも、引き続き個別にも授業の改善を続け、今後も県内就職・定住に繋がる動きを推し進めていく予定である。